

2026年3月期 期末決算説明会資料 (本編)

2026年5月19日
大太平洋金属株式会社

当社ホームページ
<https://www.pacific-metals.co.jp/>
お問い合わせ先
総務部 (IR担当) TEL:03-3201-6681

2026年3月期 期末決算説明会資料（本編）

- 第1章 2026年3月期 通期決算実績 p.3～6
- 第2章 2027年3月期 通期決算見通し p.7～9
- 第3章 「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況 p.10～17
- 第4章 付録 p.18～20

第1章 2026年3月期 通期決算実績

2026年3月期 通期決算実績

1. サマリー

	2025.3 実績		2026.3 予想 (1/30発表)		2026.3 実績		対 前期比 (%)	対 1/30発表 予想比 (%)
	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)		
売上高	13,175	—	9,138	—	9,414	—	△28.5	3.0
営業利益 (△損失)	△7,368	△55.9	△6,507	△71.2	△4,971 (*1)	△52.8	—	—
経常利益 (△損失)	△1,622	△12.3	199	2.2	3,323 (*2)	35.3	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (△損失)	△1,667	△12.7	△181	△2.0	2,610	27.7	—	—
(投資額)	386	—	—	—	435	—	12.7	—
(減価償却費)	355	—	—	—	352	—	△0.8	—

2026.3実績
(*1)棚卸資産の簿価切り下げ額の
戻し入れ 23億円
(*2)持分法投資利益 78億円

	2025.3 実績	2026.3 予想 (1/30発表)	2026.3 実績	対 前期比 (%)	対 1/30発表 予想比 (%)
生産数量 (Ni ^t)	3,888	3,619	3,615	△7.0	△0.1
販売数量 (Ni ^t)	5,430	3,850	3,962	△27.0	2.9
適用LME (US\$/t)	17,108	15,124	15,234	△10.9	0.7
[適用LME (US\$/lb)]	[7.76]	[6.86]	[6.91]		
適用為替 (¥/US\$)	151.94	150.38	150.87	△0.7	0.3

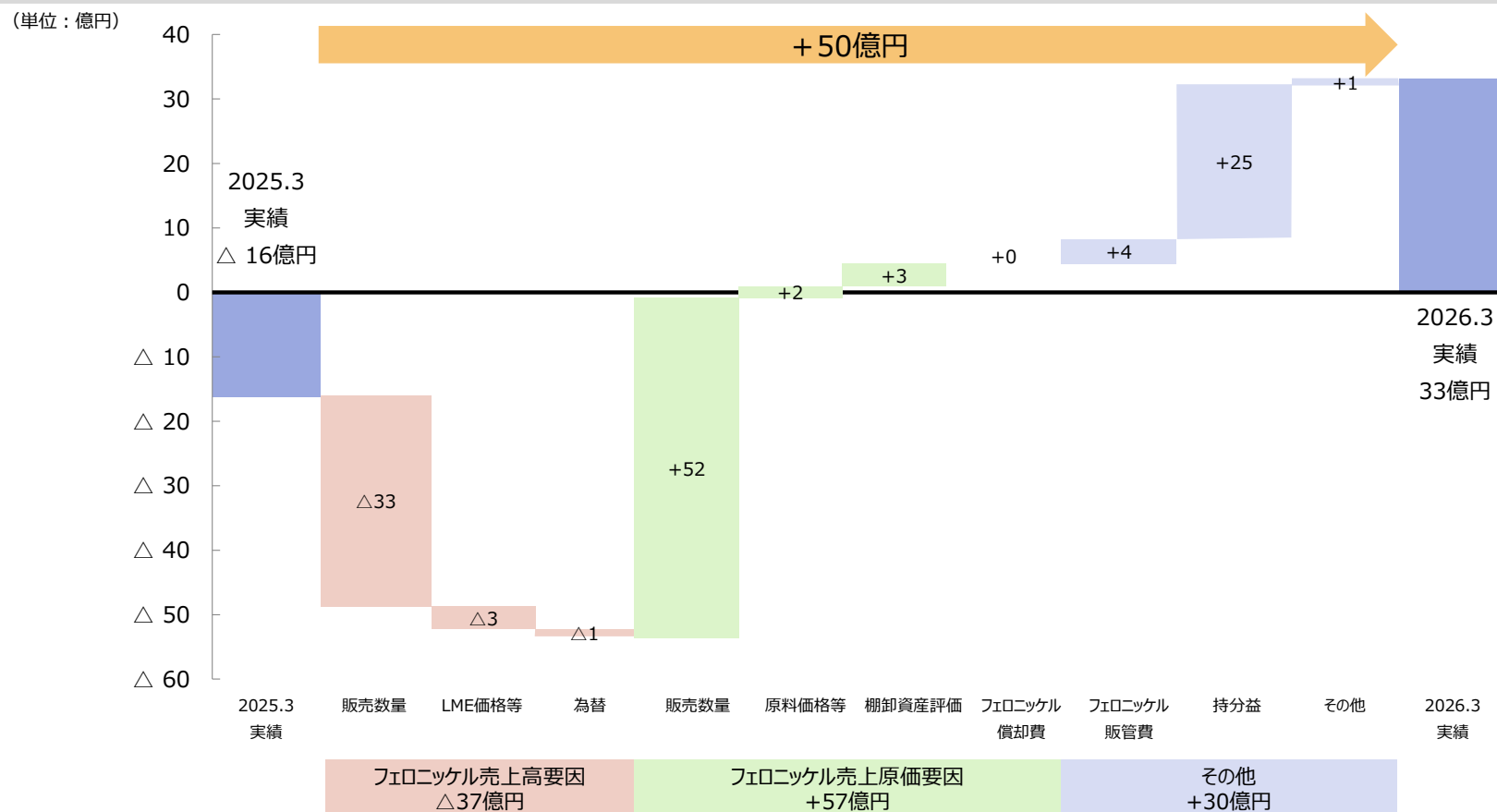
【フェロニッケル販売割合 (実績)】
・国内向け：96%
・台湾向け：4%

2026年3月期 通期決算実績

2. トピックス

ステンレス鋼業界	<ul style="list-style-type: none"> 中国や近年生産量が急伸するインドネシアにおいて、設備稼働率は総じてばらつきが見られる推移
フェロニッケル需要	<ul style="list-style-type: none"> 価格優位性が見られるニッケル銑鉄（NPI）へ調達がシフト カーボンニュートラルを意識したステンレススクラップ配合比率見直しも見られ、鈍化傾向の推移
調達面	<ul style="list-style-type: none"> ニッケル鉱石の価格は底堅いニッケル鉱石需要等を背景に価格高 諸原燃料価格は世界的に高水準、生産コストは高止まりが継続
LMEニッケル価格	<ul style="list-style-type: none"> インドネシア政府の企業予算作業計画（RKAB）削減等に伴い期の後半に一時上昇 中国景気の停滞、外国為替相場や金融資本市場の変動及び中東地域やウクライナ情勢の緊迫化等の複合的な要因が意識される中、一定のレンジで推移
フェロニッケル販売数量	<ul style="list-style-type: none"> 一定の収益性を損なわない戦略的な数量抑制方針を継続したため、前期比27.0%の減少
フェロニッケル販売価格	<ul style="list-style-type: none"> 当社適用平均為替レートは前期比0.7%の円高 当社適用LMEニッケル価格は前期比10.9%下落 ニッケル銑鉄の価格も一部参考としたことから販売価格安、厳しい販売環境が継続

3. 連結経常損益分析



第2章 2027年3月期 通期決算見通し

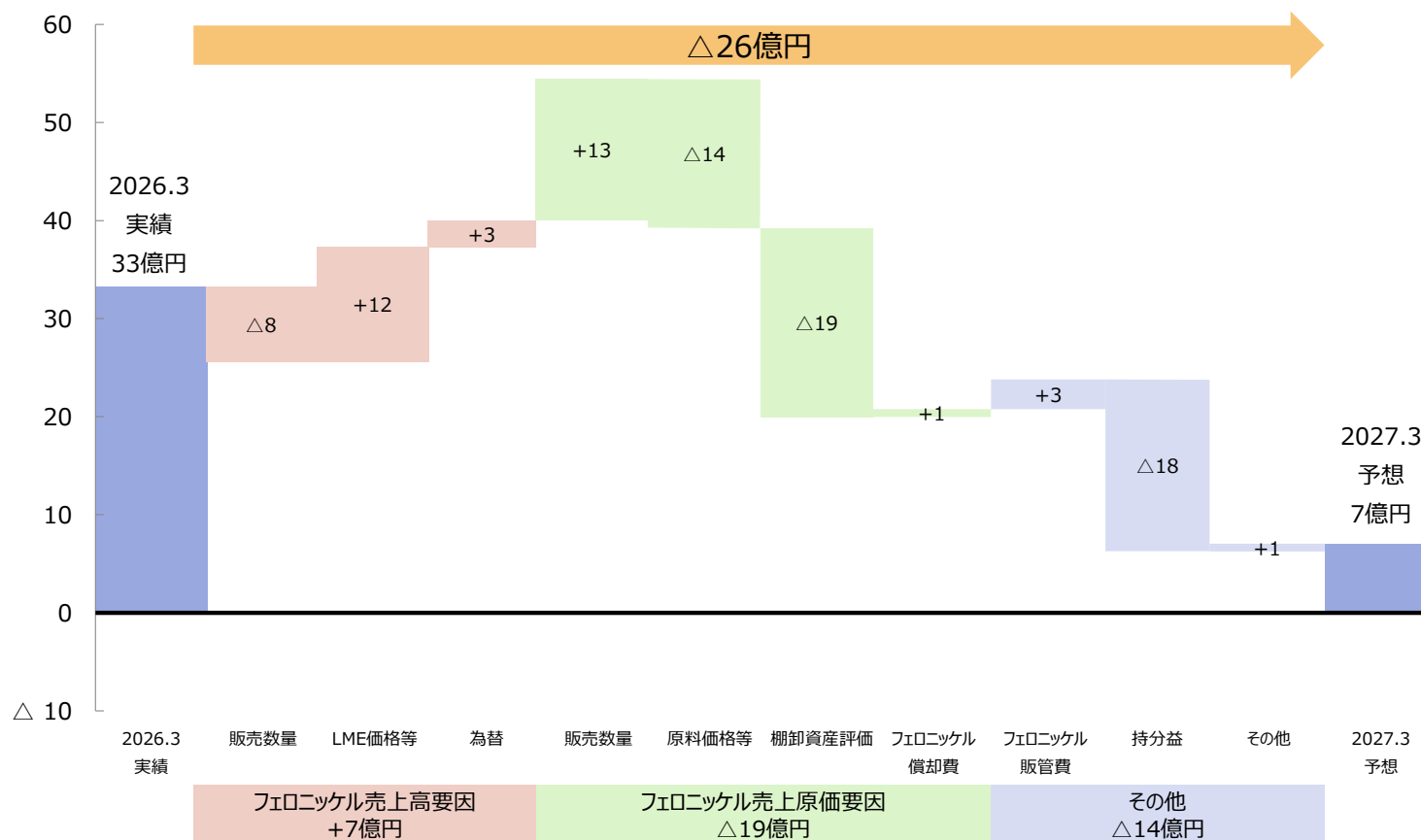
1. サマリー

	2026.3 実績		2027.3 予想		対前期比 (%)
	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)	
売上高	9,414	—	10,484	—	11.4
営業利益 (△損失)	△4,971	△52.8	△6,006	△57.3	—
経常利益	3,323	35.3	704	6.7	△78.8
親会社株主に帰属する当期純利益	2,610	27.7	158	1.5	△94.0
(投資額)	435	—	254	—	△41.6
(減価償却費)	352	—	302	—	△14.2

	2026.3 実績			2027.3 予想			対前期比 (%)
	上期	下期	通期	上期予想	下期予想	通期予想	
生産数量 (Ni ⁺)	1,787	1,828	3,615	1,598	1,499	3,097	△14.3
販売数量 (Ni ⁺)	1,890	2,072	3,962	1,697	1,903	3,600	△9.1
適用LME (US\$/ ⁺)	15,322	15,168	15,234	17,527	17,637	17,593	15.5
[適用LME (US\$/lb)]	[6.95]	[6.88]	[6.91]	[7.95]	[8.00]	[7.98]	
適用為替 (¥/US\$)	147.83	153.62	150.87	156.68	156.00	156.32	3.6

2. 連結経常損益分析

(単位：億円)



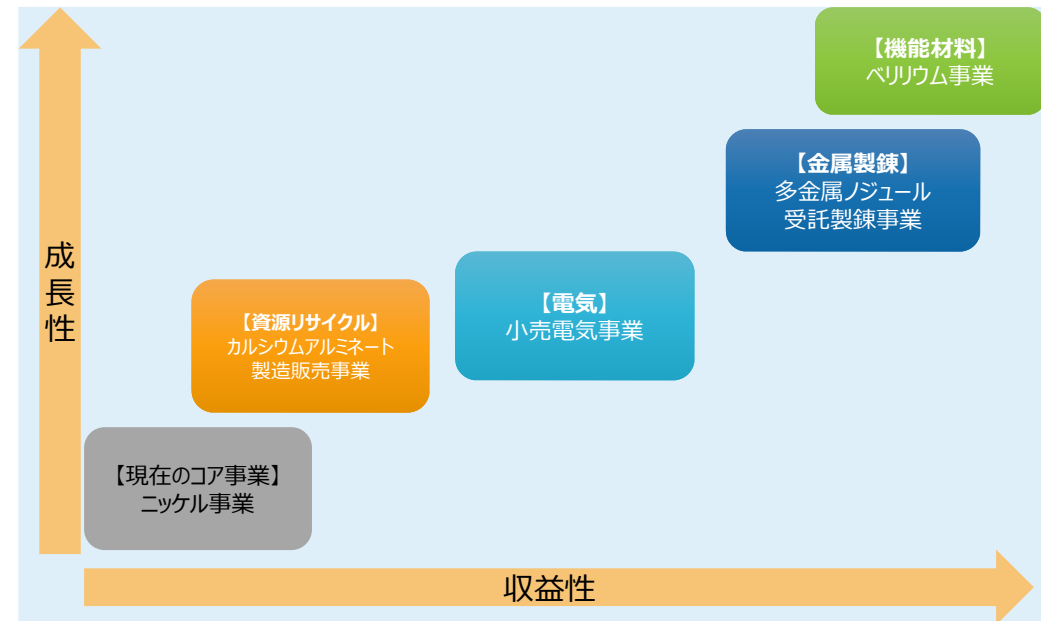
第3章 「中長期戦略PAMCOvision2031」 の進捗状況

「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況

1. 事業ポートフォリオ再構築について

これまでに種蒔きした新規事業分野への参入により、事業の多角化を図る

<p>金属製錬事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニッケル事業は、ステンレス原料向けの事業からマット原料向けに用途を拡大、転換も視野に、事業損益の大幅改善を目指す ・また、資源製錬時に大量消費するエネルギー関連基盤は、新規事業においても活用することから、速やかな利用とともに途切れない体制を維持する ・多金属ノジュール事業は2030.3期から本格稼働、そのため、2026.3期～2027.3期の一定期間は業態転換のため業績の改善はスロー
<p>小売電気事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小売電気事業者として、高圧・特高圧事業者向けの小売電気事業を立上げ、電気事業分野への進出を目指す ・地域の発電事業者と連携し、付加価値の高い地場の再生可能エネルギー発電による電力を供給する
<p>ベリリウム事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MiRESSO社の革新的な製錬技術による製造コストダウン及びEV拡大を背景に、エレクトロニクス用途の需要拡大が見込まれる ・MiRESSO社との包括的業務提携を締結、当社リソースを活用するとともに当面出資参画 ・ベリリウム合金市場向け事業に参入し、将来的に核融合市場向け事業への事業参画・参入を目指す
<p>カルシウムアルミネート製造販売事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高炉の電炉化により、脱硫材・造滓材としてのカルシウムアルミネートの需要拡大が見込まれる ・アマタHD社との協業によるカルシウムアルミネート製造販売事業を立上げ、環境リサイクル事業を目指す ・これまでの事業で培った技術を活用し、リサイクル原料の付加価値化を図る ・低炭素社会を背景に高炉から電炉へシフトする中、電炉鋼の不純物除去に必要なカルシウムアルミネートの需要拡大に対応する

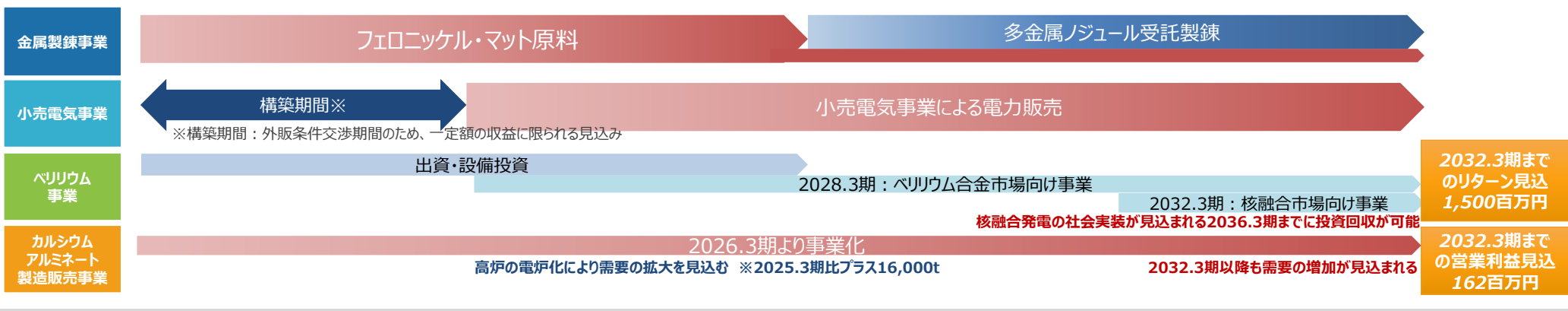
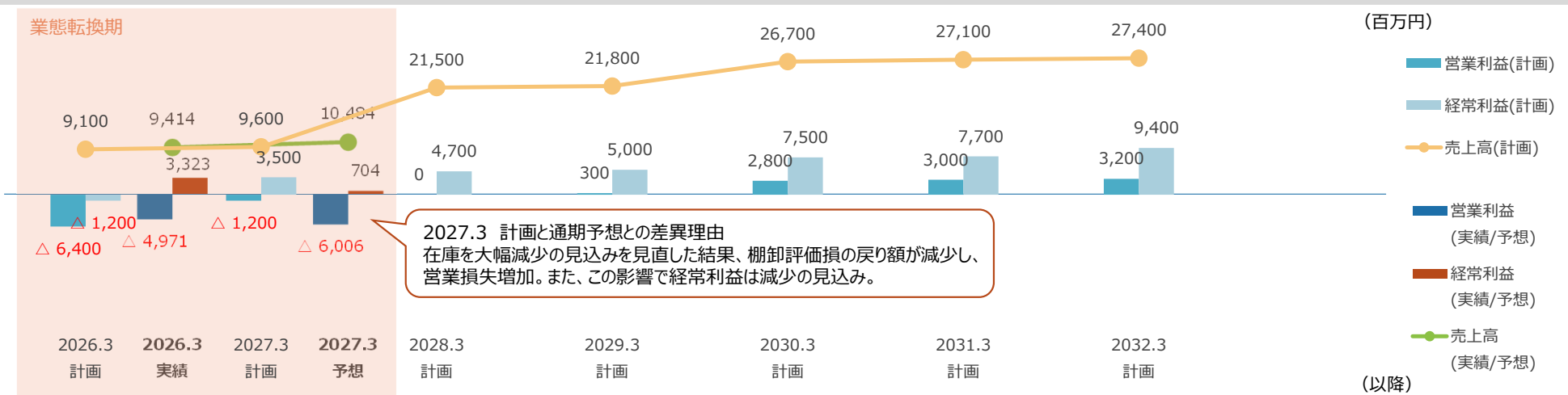


事業PF再構築

- ・業態をゼロベースで見直し新たなステージへ
- ・「中長期戦略PAMCOvision2031」の策定
- ・これまでに種蒔きした新規事業分野への参入により、事業の多角化を図る

「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況

2. 7カ年損益サマリー



3. 各事業の進捗状況

金属製錬事業

ニッケル事業（マツ原料向け事業）

◆フェロニッケル事業の損失抑制へ

・大規模な設備投資を伴わない事業の多角化にて現行のフェロニッケル事業の損失は抑制傾向へ

◆ニッケルリサイクル資源の活用へ

・マツ原料向け事業に必要となるニッケルリサイクル資源の活用を検討

◆販売先との協議状況

・当社の強みである「安定した高品質の生産体制」を背景に、販売候補先と条件合意（品質・数量・時期・価格等）に向け協議中

◆生産・販売開始見通し

・2027年度中の生産販売開始を目指す

多金属ノジュール受託製錬事業

◆投資意思決定の判断時期

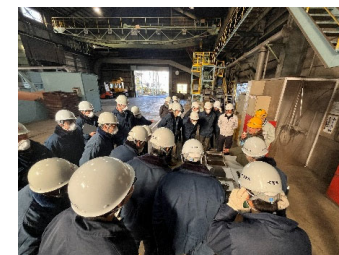
・採掘規則が整備され次第、製錬設備改造投資の意思決定の判断を行う

◆資源ソースの多角化へ

・資源ソースの多角化のため、ハワイ沖CCZ日本鉞区を対象とした製錬の検討を開始
・東京大学との連携にて南鳥島沖多金属ノジュールの基礎研究に参画

◆関連団体とのつながり

・国内外で海底資源の関心が高まっており、関連学会（資源・素材学会）やJMEC（国際資源開発研修センター）主催の資源講座にて講演



関連団体での講演・視察の様子

3. 各事業の進捗状況

小売電気事業

小売電力の販売状況

◆高圧・特別高圧需要家向けの電力提供

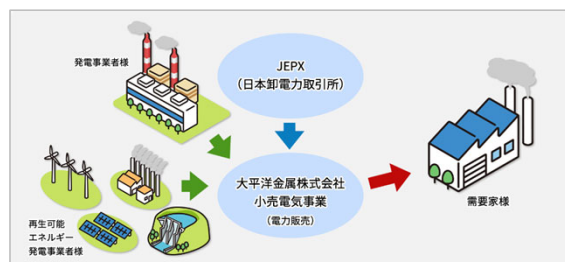
・高圧・特別高圧需要家を対象とした供給体制を構築、各社の脱炭素方針に即した再エネ電力の提供を開始

◆契約件数の積み上げ

・需要家毎の電力需要(時間帯、負荷変動)に則した複数メニューを提案、需要家との契約件数を着実に積み上げ中。

◆課題と今後の取り組み

・一方で大口需要家である特別高圧需要家との契約成立に課題があり、営業エリアの拡大並びに再エネ電力、VPP等を組み合わせた統合型提案による差別化の基盤を整備し、更なる顧客獲得を目指す。



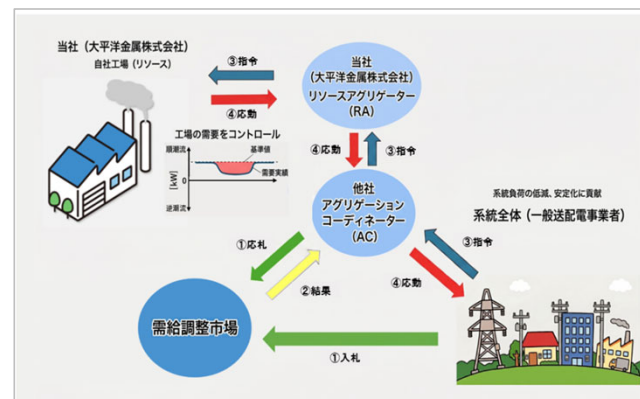
小売電気事業のイメージ

VPP市場への参入

◆VPP市場参入に向けた取り組み

・特定卸供給事業者としてのVPP(Virtual Power Plant：仮想発電所)市場参入に向け、当社需要設備による調整力供出を先行実施、今後、同ナレッジを用い、他社設備を含む統合・制御(※)に発展させ電力系統安定化ならびに事業の深化、安定化に資する取組を進める。

(※)複数の電力の需要家や発電リソースを取りまとめて需給バランスをコントロールするつなぎ役、いわゆるアグリゲートの役割



VPP市場参入のイメージ

3. 各事業の進捗状況

ベリリウム事業

MiRESSO社のシリーズA 資金調達ラウンド完了

◆当社による第三者割当増資の引き受け

・2025年7月29日、株式会社MiRESSOとの資本業務提携契約の締結および第三者割当増資（シリーズA）15億円の引き受けの実施

◆シリーズA資金調達ラウンドの完了

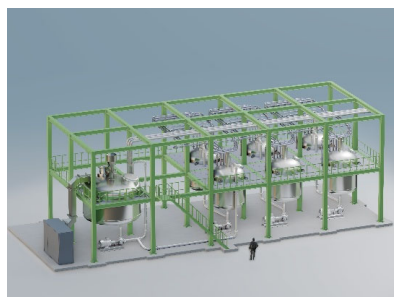
・MiRESSO社が複数投資家を引受先として実施するシリーズA資金調達ラウンドに参画し、総額42.3億円のシリーズA資金調達ラウンドを完了

パイロットプラント「BETA」(※)

◆2026年度中の完成へ

・2026年度中の完成予定に向け、進行状況は順調
・パイロット実証に向けた体制を整備中

(※) MiRESSO社のベリリウム製造パイロットプラント
(Beryllium Testing plant in Aomori)
当社製造所内に建設



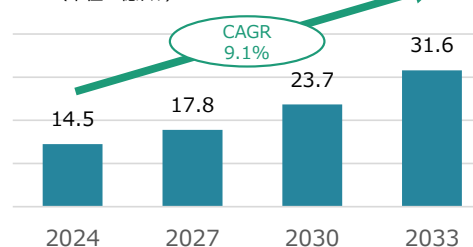
ベリリウムの生産へ

◆ベリリウム銅母合金の生産へ

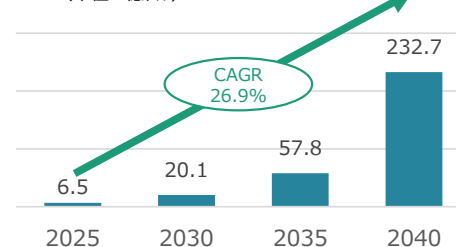
・ベリリウム生産は核融合発電向けを主とするが、幅広い用途で活用可能
・自動車、エレクトロニクス等に向けたベリリウム銅母合金の生産に向けた試験製錬を進行中

ベリリウム市場拡大のイメージ

ベリリウム製品市場規模推移予測
(単位：億ドル)



核融合炉市場規模の推移予測
(単位：億ドル)



※核融合発電の社会実装には期間を要するため、その間、核融合発電実証向け及び既存のベリリウム製品市場へベリリウム製品を供給する

Bosson Research「Global Fusion industry Research Report 2025」
公開情報をもとに当社作成

3. 各事業の進捗状況

カルシウムアルミネート製造販売事業

事業開始

◆本格的な事業開始

- ・当社の長年培ったリサイクル原料の電気炉製錬技術を活用し、2025年度下期より、本格的に製造販売事業を開始
- ・アマタHD社との協業にて、アマタ社の持つ国内販売網を活用し、日本全国の脱硫材・造滓材用途の顧客に対し販売を展開中

◆製造の状況

- ・電気炉で原料を完全溶融することで、顧客の使用しやすい、品質を重視したカルシウムアルミネートを製造
- ・販売状況見合いの製造を実施し、低炭素社会を背景とした高炉から電炉へのシフトによる需要を注視しフル生産とする計画

◆販売の状況

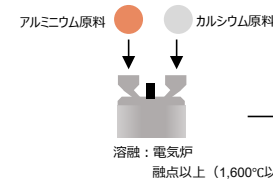
- ・国内外から供給されるカルシウムアルミネートとの品質面での差別化による販売を展開中



電気炉での製造（スラグタップ）

カルシウムアルミネートの特徴

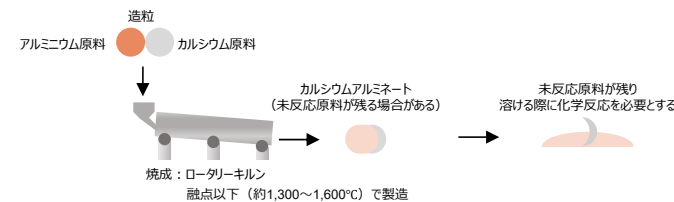
- ・カルシウムアルミネートには、溶融品と焼成品があり、溶融品が比較的精錬でのスラグ化に優れているといわれます。
- ・当社で製造販売するカルシウムアルミネートは、溶融品であり、原料を電気炉で完全溶解することで、低融点の化合物を生成しています。そのため、脱硫材・造滓材用途に使用しやすい特徴を持ちます。



溶融品イメージ

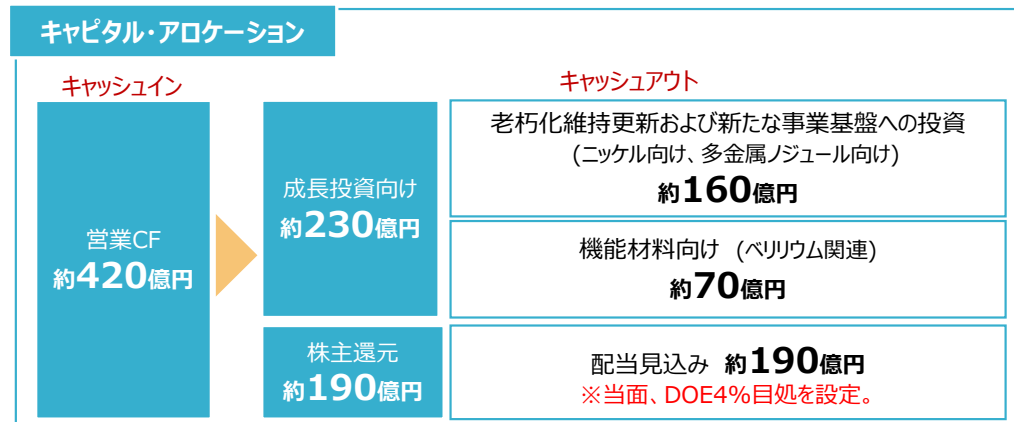
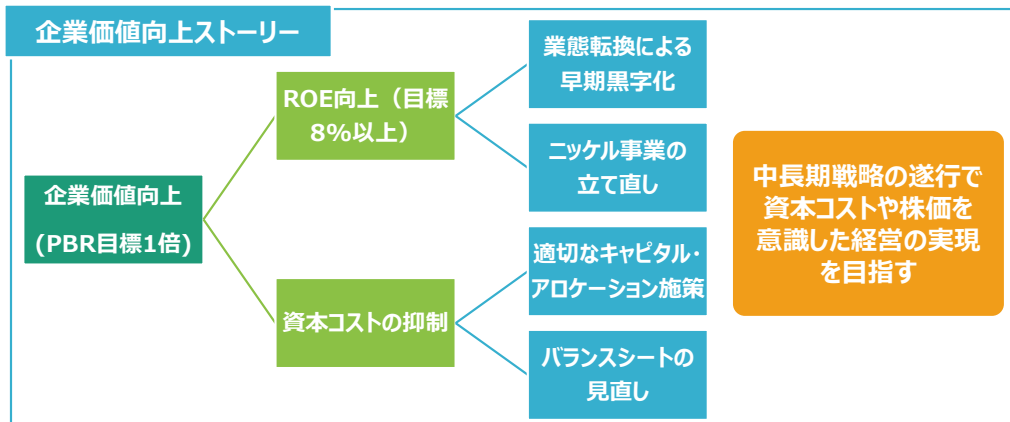


カルシウムアルミネート5-30mm



焼成品イメージ

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（進捗状況）



主な取り組み

自社株買いの実施	・2025年6月 実施 (約36億円)
株式報酬制度導入	・2025年5月 導入
株主・投資家様との対話の実施 (2026.3期)	・決算説明会：2回実施 (2025年5月、11月) ・個別面談：5-6月 5回、8-9月 11回、11-12月 11回、2-3月 14回実施 ・個別面談での主な議論テーマ： 既存事業の収益改善策、中長期戦略の進捗 ⇒対話内容は定期的に取締役会へ報告 ⇒IR活動全般にフィードバック

進捗状況

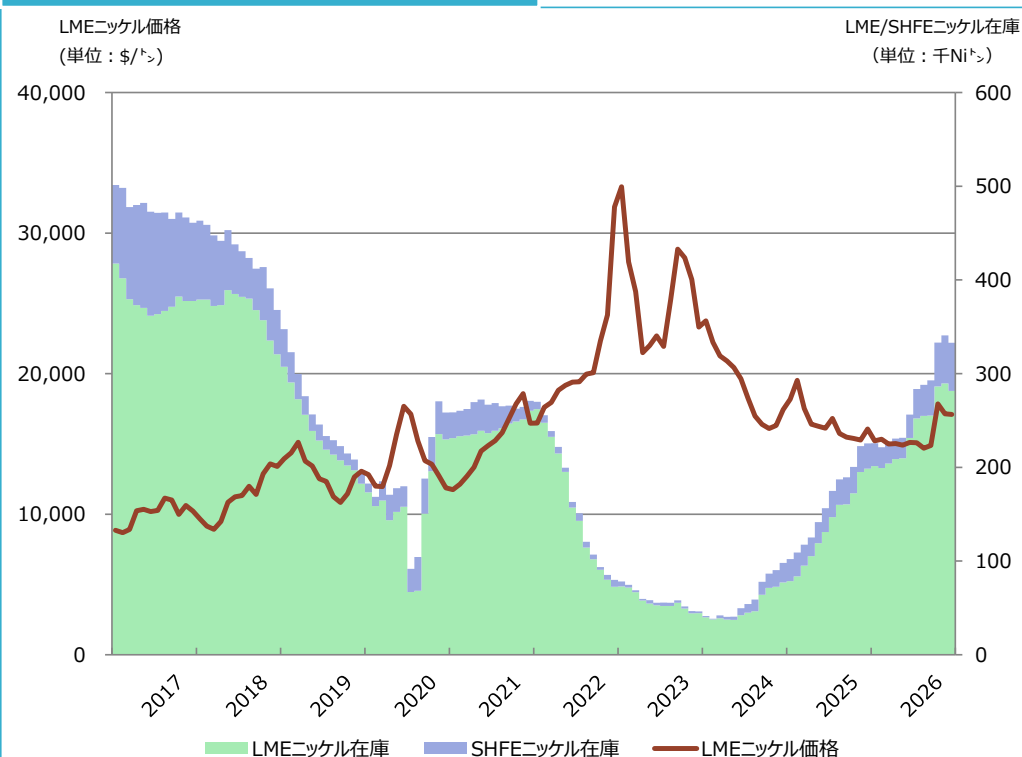
老朽化維持更新・新規事業投資	・2026.3実績 4億円 ・2027.3予想 2億円
機能材料向け投資	・2026.3実績 15億円 ・2027.3以降の投資は検討中
株主還元 (配当)	・2026.3 中間配当10億円、期末配当13億円 ・2027.3 22億円 (予想)

第4章 付録

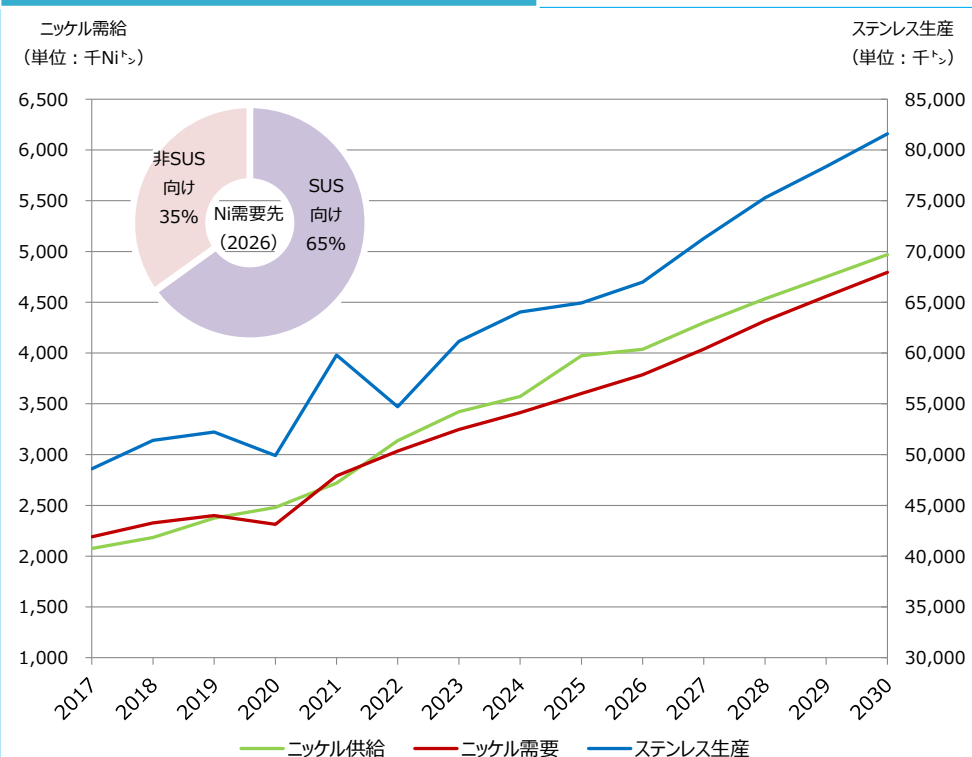
1. ニッケル市場の動向①

※当社調べ

ニッケル価格と在庫の推移



ステンレス生産とニッケル需給の推移

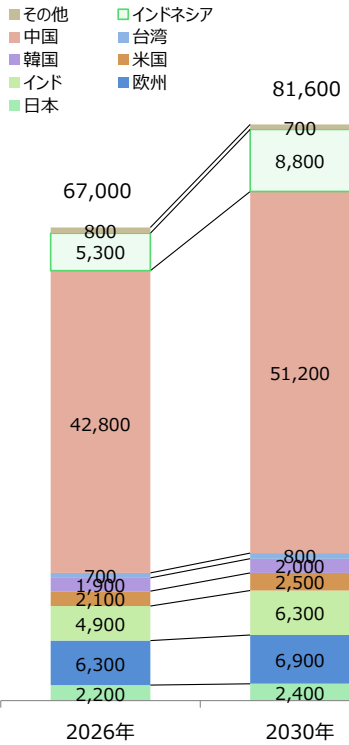


1. ニッケル市場の動向②

※当社調べ

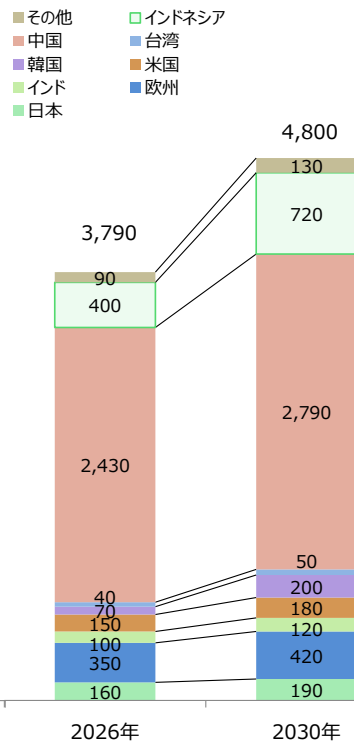
ステンレス生産見通し

(単位：千ト)



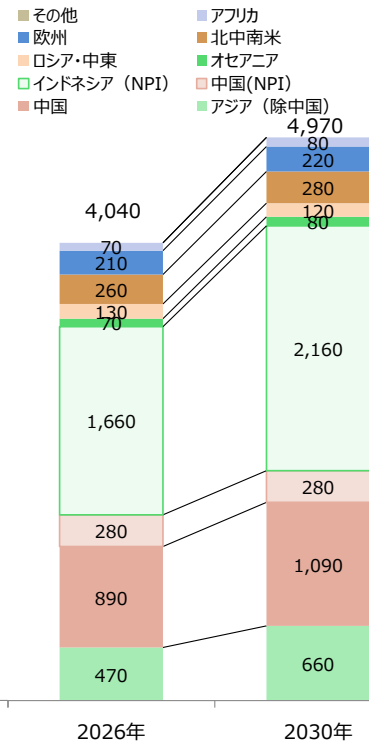
ニッケル需要見通し

(単位：千Niト)

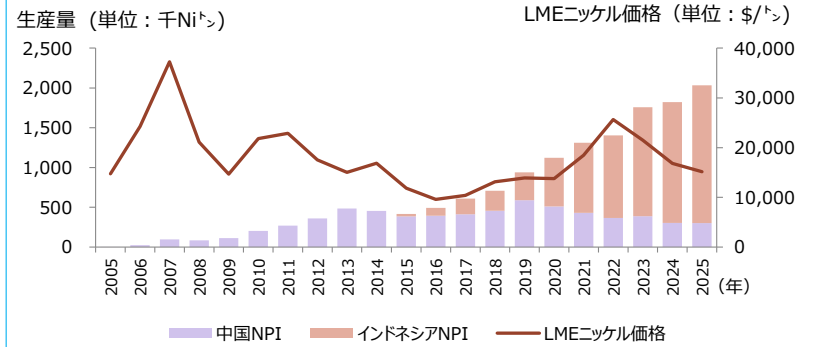


ニッケル供給見通し

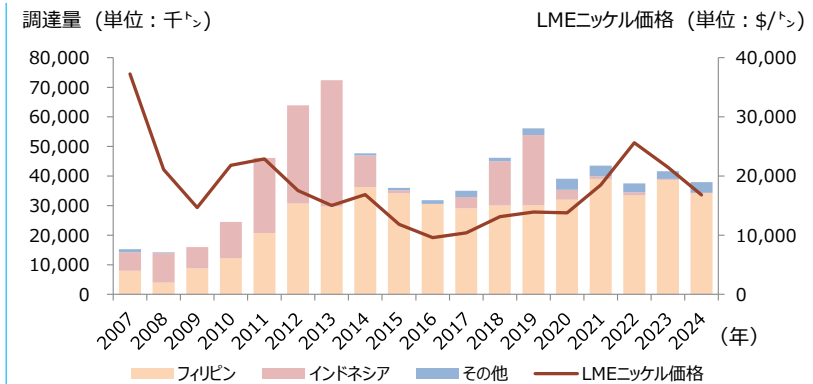
(単位：千Niト)



ニッケル銑鉄 (NPI) 生産量の推移



中国のニッケル鉱石調達量の推移



大平洋金属株式会社

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。

本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。